

- 問1 中部地方に位置する3つの大規模な山脈は、その険しさから「日本の屋根」とも称されます。これらのうち、最も西側に位置する飛騨山脈、中央に位置する木曽山脈とともに「日本アルプス」を構成し、最も東側に位置している山脈の名称を選びなさい。 (2020年 愛媛県公立入試 類似)
1. 奥羽山脈 2. 中国山地 3. 赤石山脈 4. 越後山脈
- 問2 冬の日本周辺における気象衛星画像を分析した際、日本海側や日本固有の領土である竹島周辺に多くの雲が広がっていることがあります。このような雲が発生し、日本海側に雪をもたらす背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 島根県公立入試 類似)
1. 赤道付近で発生した熱帯低気圧が、日本海を北上しながら周囲の湿った空気を巻き込み、巨大な雲の渦を作るため。
2. 太平洋高気圧の発達により、南からの暖かく湿った空気が日本列島にぶつかり、上昇気流となって雲が発生するため。
3. シベリア高気圧から吹き出す冷たく乾燥した季節風が、日本海を渡る際に水蒸気を補給されて雲が発生するため。
4. 揚子江気団から移動性高気圧が東へ進んでくる際、日本海側で急激に気圧が下がり、大規模な雲が発生するため。
- 問3 三つの異なる地域の雨温図を比較した際、冬の最低気温が氷点下まで下がり、年間の降水量が千ミリメートル程度と比較的少なく、夏に降水が集中している都市が見られました。この都市が属する気候区分として最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2026年 埼玉県公立入試 類似)
1. 日本海側の気候 2. 太平洋側の気候 3. 瀬戸内の気候 4. 中央高地の気候
- 問4 中部地方を北流して長野県から新潟県へと流れ、日本海に注ぐ全長約367kmの河川の名前として正しいものを、次の中から選びなさい。 (2017年 長崎県公立入試 類似)
1. 石狩川 2. 木曽川 3. 利根川 4. 信濃川
- 問5 日本の各地で見られる気候の特色について述べた文として、和歌山県新宮市のような太平洋側の気候と、島根県出雲市のような日本海側の気候の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2024年 埼玉県公立入試 類似)
1. 年間を通じて降水量が極めて少なく温暖な地域 - 夏に南東の季節風の影響で降水量が集中する地域
2. 夏と冬の気温差が激しく年間降水量が少ない地域 - 冬に乾燥した晴天の日が続く地域
3. 夏から秋にかけて台風や梅雨の影響で降水量が非常に多い地域 - 冬に北西の季節風の影響で雪や雨の降水量が多くなる地域
4. 冬に北西の季節風の影響で雪が多く降る地域 - 1年を通じて降水量の変化が少なく安定している地域
- 問6 自然災害が発生した際に、被害が及ぶと予想される範囲や避難場所、避難経路などを地図上にまとめたものは何と呼ばれますか。最も適切なものを選んでください。 (2014年 沖縄県公立入試 類似)
1. 等高線図 2. 地形図 3. 路線図 4. ハザードマップ (防災マップ)
- 問7 日本の気候において、12月や1月の降水量が突出して多い日本海側の地域では、交通安全を確保するために信号機の形状にある工夫がなされています。一般的な横型の信号機ではなく「縦型」の信号機が採用されている理由として、最も適切なものはどれですか。 (2025年 和歌山県公立入試 類似)
1. 道路脇に高く積み上げられた除雪後の雪山に、信号機が接触するのを避けるため
2. 冬の強い季節風による横揺れを抑え、電球の寿命を延ばすため
3. 雪が積もる面積を最小限に抑え、重みによる破損や雪による灯火の遮蔽を防ぐため
4. 冬の短い日照時間において、西日がレンズに反射して見えにくくなるのを防ぐため
- 問8 日本列島の地質構造に関する説明として、フォッサマグナの特徴を正しく述べたものはどれですか。 (2017年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 糸魚川・静岡構造線を西端とする、日本列島を地質的に南北 (東西) に分断する巨大な凹地である。
2. プレーートの沈み込みによって形成された、列島に沿って分布する細長い海溝のことである。
3. 火山活動によって噴出した溶岩が積み重なってできた、標高の高い山脈地帯のことである
4. 関東地方から九州地方までを内帯と外帯に分ける、日本最大級の断層のことである。
- 問9 日本の沿岸部を通る高速道路の中には、津波発生などの災害時に周辺住民の避難場所として活用されるものがあります。想定される最大の津波による浸水深が3〜4メートルである地域において、盛り土構造によって平均8〜9メートルの高さに建設された高速道路が避難場所として有効とされる最大の理由として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 福井県公立入試 類似)
1. 盛り土によって道路面が周囲の浸水想定域よりも高い位置に保たれ、安全を確保できるため。
2. 高速道路は緊急車両専用の道路となるため、被災地への救援物資を最も早く届ける拠点となるため。
3. 道路がトンネルや地下構造を中心に設計されており、津波による波の衝撃から直接避難者を守ることができるため。
4. 高速道路の壁面が強固な防潮堤として機能し、津波の浸水そのものを完全にせき止めることができるため。
- 問10 沿岸部に位置する徳島市などの都市部では、地震に伴う津波被害を最小限に抑えるための防災対策が進められています。浸水が想定される区域において、地形の標高や避難経路、避難場所を住民に周知するために作成される地図を何といいますか。 (2023年 兵庫県公立入試 類似)
1. ハザードマップ 2. 等高線図 3. 地形図 4. ロードマップ
- 問11 自然災害による被害を予測し、被害の軽減や円滑な避難に役立てるために、土砂災害などの被害想定区域や避難場所・避難経路を表示した地図を何といいますか。 (2026年 宮崎県公立入試 類似)
1. ハザードマップ 2. ドットマップ 3. ユニバーサルデザインマップ 4. 地形図
- 問12 日本の河川のうち、最も長いのは信濃川ですが、雨水や雪解け水が流れ込む範囲である「流域面積」が日本で最大である河川はどこですか。 (2022年 岡山県公立入試 類似)
1. 信濃川 2. 淀川 3. 石狩川 4. 利根川
- 問13 ハザードマップを利用する際、地図上に示された情報から読み取ることのできる、防災において重要な内容として最も適切なものはどれですか。 (2016年 佐賀県公立入試 類似)
1. 洪水や土砂災害などの災害種別ごとに異なる、浸水の深さや土砂の到達範囲
2. 主要な特産品の産地や、伝統的な祭りが行われる神社仏閣の所在地
3. 地価の上昇が見込まれる地域や、将来建設される予定の鉄道ルート
4. 地域の歴史的な変遷を示す、過去の海岸線の位置や古い町並みの広がり

答え合わせ・解説

問1	答え 3 赤石山脈	中部地方の中央部には標高3,000メートル級の山々が連なる3つの山脈があり、西から順に飛騨山脈（北アルプス）、木曽山脈（中央アルプス）、赤石山脈（南アルプス）と呼ばれています。これらを総称して日本アルプスと呼びます。奥羽山脈は東北地方の中央を南北に走る山脈であり、越後山脈は新潟県と周辺の県境に位置する山脈です。
問2	答え 3 シベリア高気圧から吹き出す冷たく乾燥した季節風が、日本海を渡る際に水蒸気を補給されて雲が発生するため。	冬の日本では、シベリア高気圧から北西の季節風が吹き出します。この風はもともと乾燥していますが、比較的暖かい日本海の上を通る際に、海面から熱と水蒸気を大量に吸収して雲を形成します。この雲が日本海側や周辺の島々に広がり、日本の山脈にぶつかることで日本海側に雪を降らせる原因となります。気象衛星画像では、この季節風の流れに沿った筋状の雲が明瞭に確認できます。
問3	答え 4 中央高地の気候	本州中央部の標高が高い地域に位置するこの気候区は、冬の寒さが厳しく、夏と冬の気温差（年較差）が大きいのが特徴です。また、周囲を高い山々に囲まれているため、季節風による湿った空気が入りにくく、年間を通して降水量が少ない傾向にあります。
問4	答え 4 信濃川	長野県内では千曲川と呼ばれ、新潟県に入ると名前を変えるこの河川は、日本で最も全長が長い河川です。河口付近には日本有数の米の産地である越後平野が広がっています。日本で最も流域面積が広い利根川（関東地方）や、3番目に長い石狩川（北海道）と混同しないよう注意が必要です。
問5	答え 3 夏から秋にかけて台風や梅雨の影響で降水量が非常に多い地域 - 冬に北西の季節風の影響で雪や雨の降水量が多くなる地域	太平洋側の地域（新宮市など）は、夏に南東の季節風の影響を受けるほか、梅雨や台風の影響で6月や9月ごろに降水量が突出して多くなるのが特徴です。一方、日本海側の地域（出雲市など）は、冬に水分を蓄えた北西の季節風が山地にぶつかることで、12月から1月にかけて雪や雨による降水量が他の時期よりも多くなります。
問6	答え 4 ハザードマップ（防災マップ）	地震、津波、洪水、土砂災害などの自然災害による被害を最小限に抑える（減災）ことを目的とした地図です。あらかじめ被害予測を可視化することで、住民が迅速かつ安全に避難できるよう、自治体などが作成して配布しています。
問7	答え 3 雪が積もる面積を最小限に抑え、重みによる破損や雪による灯火の遮蔽を防ぐため	日本海側の地域では、冬に湿った北西の季節風が吹き付けるため、積雪量が非常に多くなります。一般的な横型の信号機は雪が積もる面積が広く、その重みでアームが折れたり、積もった雪がレンズを隠して視認性が低下したりする恐れがあります。信号機を縦型に設置することで雪が積もる面積を減らし、雪が下に滑り落ちやすくする工夫がなされています。
問8	答え 1 糸魚川・静岡構造線を西端とする、日本列島を地質的に南北（東西）に分断する巨大な凹地である。	フォッサマグナは単なる「線」ではなく、古い地層の上に新しい地層が厚く堆積している「地質的な溝（領域）」を指します。この領域の西側の境界線が糸魚川・静岡構造線です。選択肢にある「内帯と外帯に分ける断層」は中央構造線の説明であり、これと混同しないよう注意が必要です。
問9	答え 1 盛り土によって道路面が周囲の浸水想定域よりも高い位置に保たれ、安全を確保できるため。	東日本大震災などの教訓から、盛り土（地盤に土を積み上げて高くする構造）によって周囲の平地よりも高い位置に建設された高速道路が、津波発生時の一時的な避難場所として注目されています。想定される最大の津波による浸水深よりも、道路面の高さが上回っている場合、その高低差を利用して浸水被害から逃れる「垂直避難」が可能になります。これは単なる交通路としての機能だけでなく、地域防災における多目的なインフラ活用の一環です。
問10	答え 1 ハザードマップ	自然災害による被害を予測し、被害の範囲や避難場所を地図上に示したものをハザードマップ（被害予測図）と呼びます。地理的分野では、身近な地域の防災対策として頻出の用語です。単に避難所を覚えるだけでなく、自分が住む地域の浸水リスクや避難経路を事前に確認しておくことが、防災教育において重視されています。
問11	答え 1 ハザードマップ	自然災害が発生した際に被害を最小限に抑えるため、危険な区域や避難場所を示した地図をハザードマップと呼びます。日頃から危険区域を確認し、迅速に避難できるように作成されています。
問12	答え 4 利根川	日本の河川において、長さが最も長いのは信濃川ですが、流域面積（その河川に水が集まってくる範囲の面積）が最大なのは利根川です。関東平野という日本最大の平野を流れる利根川は、多くの支流を持ち、広大な範囲の農業や工業、生活用水を支えていることから「坂東太郎」とも呼ばれています。
問13	答え 1 洪水や土砂災害などの災害種別ごとに異なる、浸水の深さや土砂の到達範囲	ハザードマップは単に避難所を指し示すだけでなく、災害の種類（洪水、津波、土砂災害など）に応じて、どの程度の被害（浸水の深さなど）が想定されるかを色分けなどで表現しています。災害の種類によって危険な場所や避難すべき場所が異なるため、これらを複合的に把握しておくことが「減災」において極めて重要です。